

高退協ニュース

高退協事務局

1986.7.

No. 30

・暑中見舞のあいさつ
 ・反骨七選の弁
 ・更に政治に関心を
 ・機関誌第七号の構想
 ・高校教研、夏季学習会
 ・研修旅行のご案内
 事務局 山原健二郎
 事務局 崎山正
 事務局 編集委員会
 事務局 事務局

暑中お見舞 申しあげます

事務局

「一病息災」
 このことばが、いま関心をあつめていきます。
 社会が複雑化し、特に高年齢者は何らかの形で成人病と関わっており、高齢化社会を迎えた現代においては、病気を何も持たないことの任りが困難なこととなっています。

そして、一病息災 自分の今かかっている病気をコントロールすることによって、他の病気を予防し、元気に生活していくという意識であり、病気に目くらまされて戦うのではなく、病気と平和共存することによって健康やかに生活していくことというのです。現在のわれわれにとって、こういう考え方が必要となります。
 向老の折柄、皆様のご健康を心より祈ります。

反骨七選の弁

衆議院議員 山原健二郎

はげしいたれからでした。七夕の日の開票でした。
 「梅雨の日の修羅の土佐路を かけぬけて」
 「七夕や反骨七選の勝利かな」の二句をひねりました。
 高退協のみなさんには、わがことのようにがんばっていただきました。

「山里に手を振るひとのあま たり誰かがつてならんと思案して過ぐ」
 おそらくその触手が県下全域に人知れずのびていたにちがいありません。
 中曾根首相のりこんで「子らふふたたび戦場におくらない」、根性を育てる教育を「と戸塚ヨット・スクールを評価し」「相手は共産党だ」と目標をむきだしにして攻撃してきました。渡辺美智雄通産相は、共産党に三十票も投票するとはアホの骨頂」とわが郷土で本山町民をば倒しました。「金」とびかいました。

反骨力と反骨の疾がもたらされた。七選び議席が確保されました。痛恨もありました。同僚九人が議席を失ったことです。まさに「断腸」の思いです。ふたたび中・四国・九州で九だ一つの議席

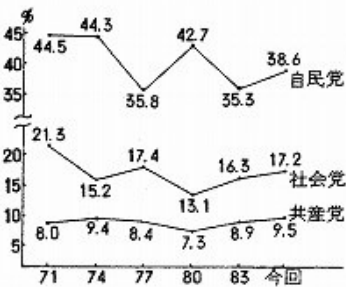
となりました。

二十七議席は民社の上です。私もひさしぶりに理事に返り咲くことになりそうです。
 かくされた「爪」がではじめました。大型間接税、マル優廃止も本音がでてきました。国家機密法、軍事費一多増突破も時間の問題でしょう。国民との矛盾は激化するものひさしからずのことばがあります。
 国鉄、臨教審など院内外呼応して真正面からたたかろうと、彼らの亀裂もふかまるでしょう。たにかいはこれからです。

更に政治に関心を

崎山正

七月の衆参同時選挙は議席数では自民党の圧勝、社会公民の完敗で終わりました。(自民党は衆議院で54、新勢力30、参議院で16、新勢力143。それに対し社会党は衆議院で25、新勢力86、参議院で10、新勢力41。共産党は衆議院で10、新勢力27、参議院で2、新勢力16)「三〇四ショック」で老いさきの短い身にとっては将来の展望を失いかける程に肉体的にも、精神的にもこたえました。しかし何時までも嘆きや絶望のなかでヤケ酒をあおることになっては自民党の衝中にはまることは必定。新しい展望をもたなくてはなりません。
 その一つ、長期的展望に九つこと。比例代表区の得票率の推移は次の通りです。



社会党は前回に比し微増。共産党は過去最高の得票率。自民党は大幅増と比較して得票率は三八・六、わずかに三・三の増加しかない。長期的にみれば低落傾向に歯どめがかかったとはいえず、

真の革新の展望は決して暗くありません。

その二つ、矛盾が益々増大していくこと。選挙が終るや、公約の大型間接税の浮上、マル優制度の見直し、国鉄運賃の値上げ、米国の意のままの円高、政治と国民生活の矛盾は目に見えて深刻化しています。その根幹にある日米軍事同盟強化のなかでの軍事費の突出、大企業本位の高度成長のつけ、国債累積一三三兆円、国民一人あたりの借金一一〇万円のしわ寄せ。マスコミが現実主義の立場からいくらばやたいことをたたいても、国民のなかでは政治経済の根本をかえる以外に、真の平和と生活の安定はあり得ないことが益々あきらかになってきました。

ハリボテが少々大きくなって所詮「ハリボテの虎」。「蟻」のようになりまうたゆまず力を合わせ、更に一層の政治的関心を高めてゆこうではありませんか。

「忘れ得ぬ思い出」 特集のなものでしては

どうしてでしょうか

「機関誌」こうたいきょう

第七号の構想

巷間、教育荒廃の問題(いじめ、暴力、非行、学力)が憂えられています。このような時に、

- (1) 非行生と身体ごし打つかり合って更生させることができたい
- (2) 生徒指導、クラブ活動等を通じて生徒と真に結び合えた思い出
- (3) 学力を向上させようと、日夜苦闘したこと
- (4) その他の教育活動、組合活動等を通じて、鮮明に残っている思い出

などを具体的に書き留め、後輩達への心からなる「贈物」として送すことは、私たちが退職者の、いま是非やらねばならぬことだと考えますが如何でしょうか。
 会員のみなさん！ この構想には非御賛同御協力をいただきたい。(原稿募集は追って具体的にお知らせします。)

なお、従来通りの随想・短歌・俳句等の御寄稿も決して制約するものではないことも申し添えます。(機関誌第七号編集委員会)

高校教研への誘い

今年度の教研集が、次の要項で実施される運びとなりました。私たち高退協も実行委員会(江口八重子会長)のメンバーになっておりますので、皆さん多数の御参加を！

「実施要項」

- 目的 高校・障害児学校の民主的な改革を求めて、教職員と父母・県民が力を合わせて研究討論をおこなう。
- 日程と場所 八月三日(日) 午前十時～午後四時 岡豊高校(南国市岡豊町中島)
- 分科会(教科) 国語・社会・数学・理科・英語・保健体育養護・芸術・家庭・工業・商業・農林水産
- なお、問題別分科会は十月頃おこなう予定です。

高教組の夏季学習会に参加しませんか

- 一日時 八月十八日～十九日
- 二場所 愛媛県上浮穴郡久万町 国民宿舎「古岩屋荘」
- 三経費 六〇〇〇円 (懇親会費とも)
- 四内容 ①全体会 記念講演 山原健二郎氏の予定 「戦後民主教育の原点と臨教審の攻撃」
- ②分科会 1.学校の民主的教育改革をめぐす運動 2.職場・地域の要求に根ざす運動 3.事務・現業・私費などの役割と課題
- 五学習会を通じて現職組合員との交流を深め、連帯を強めよう。参加希望者は、高教組本部か高退協事務局まで、できるだけ早く連絡して下さい。

研修旅行のご案内

高退協恒例の研修旅行を次のように計画しました。多数参加下さるようご案内いたします。
 「日時 十一月八日(土) 九日(日)
 「場所 土佐清水市伊佐
 「足指師」
 「宿泊 足指師、検討中
 「経費 約二〇、〇〇〇円
 詳細については次回ニュースでお知らせします。